

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↘ 256	270	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 2	0	ヘルパンギーナ	↗ 11	10
咽頭結膜熱	↗ 28	18	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 5	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 150	98	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 478	361	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 9	15
水痘	↘ 85	96	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 98	54	無菌性髄膜炎	↘ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 2	4	マイコプラズマ肺炎	↗ 6	3
突発性発しん	↗ 64	55	クラミジア肺炎	↘ 0	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 478件(前週報告数 361件)と増加。地区別では、菊池、有明、山鹿に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の101件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- インフルエンザは、報告数 256件(前週報告数 270件)と減少。地区別では、山鹿、菊池、天草に多く報告がみられます。年齢別では、10～14歳の80件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数 150件(前週報告数 98件)と増加。地区別では、宇城、菊池、阿蘇、天草に多く報告がみられます。年齢別では、6歳の23件を最多に幅広い年齢層からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	78	1	4	45	117	26	34		23		1	2		9				
山鹿保健所	21				34	1		2	2				*	*				
菊池保健所	50	1	10	30	111	14	28		16		2	1						
阿蘇保健所	4			6	5	2							*	*				1
御船保健所	7				5	1							*	*				
八代保健所	21			9	23	10	1		3		2							
水俣保健所	4			2	10	8	2		2				*	*				
人吉保健所	6			3	24	6	5		5		1		*	*				
有明保健所	25		7	2	90	7	12		3			1						
宇城保健所	10		6	41	25	8	11		5				*	*				
天草保健所	30		1	12	34	2	5		5		5	1						5
計	256	2	28	150	478	85	98	2	64	0	11	5	0	9	0	0	6	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5カ月	6～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
インフルエンザ	256		4	7	14	8	7	12	20	16	10	14	80	35	12	7	3	4	1	1	1
小児科定点年齢	合計	0～5カ月	6～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	2	2																			
咽頭結膜熱	28		5	9	5	5	2			2											
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	150		1	2	7	19	21	19	23	19	21	6	7		5						
感染性胃腸炎	478	2	59	101	46	48	35	30	21	22	16	16	48	5	29						
水痘	85		7	24	15	16	6	10	2	1	1		2		1						
手足口病	98	4	14	51	19	5	5														
伝染性紅斑	2		1	1																	
突発性発しん	64	2	30	32																	
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	11			3	1	3	4														
流行性耳下腺炎	5						1	2	1				1								
眼科定点年齢区分	合計	0～5カ月	6～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	9						1						1		3	1	1	1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	6		1				1	1	2									1			
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎 : 菊池
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 : 宇城
- 手足口病 : 菊池

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が発生しました!

【重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が発生しました】

今週、県内で初めて、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者が確認されました。平成25年1月に国内で初めて症例が確認され、これまで全国で14例が確認されています(今回が15例目)。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するとみられ、感染予防策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。

- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは
 - ・SFTSは、SFTSウイルスに感染することによって引き起こされる病気です。
 - 【主な症状】発熱、倦怠感、消化器症状、リンパ節腫脹 致死率10%以上
 - 【治療方法】対症療法、有効なワクチンなし
 - 【感染経路】マダニによる咬傷
 - (※感染患者の血液・体液との接触感染も報告されている。)
 - 【潜伏期間】6日～2週間

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布しています。

- ダニ媒介性疾患の予防対策
 - ・今回確認されたSFTSはダニ媒介性疾患の1つです。
 - ・ダニ媒介性疾患の感染予防策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。
 - ① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
 - ② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
 - ③ 吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに病院で処置すること。
 - ④ マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院へ受診すること。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvitan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課